

Cadenza CD-C18

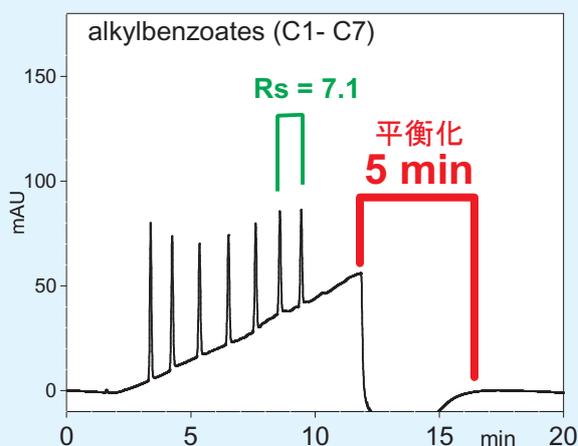
75 x 4.6 mm

Technical

次世代標準のハイスループットカラム

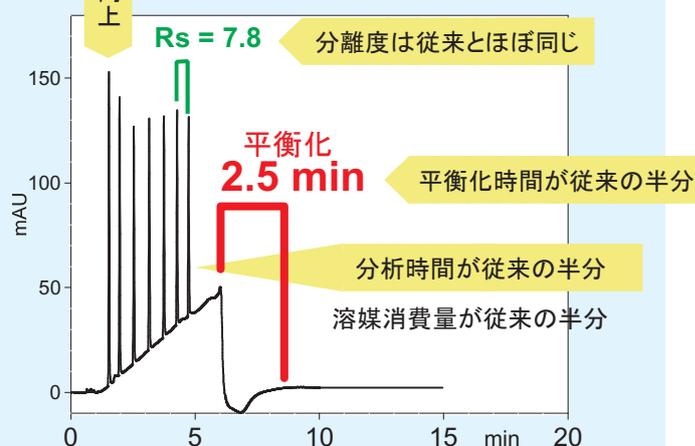
コンディショニングが早い・分離度向上・感度向上・省溶媒

従来の5 μ m ODSカラム
150 x 4.6 mm



A: water
B: methanol
60 - 100 %B (0-10 min), 60%B (10 min -)
1.0 mL/min, 37 deg.C, 220 nm, 2 μ L

Cadenza CD-C18
75 x 4.6 mm



A: water
B: methanol
60 - 100 %B (0-5 min), 60%B (5 min -)
1.0 mL/min, 37 deg.C, 220 nm, 2 μ L

Cadenza CD-C18 は従来の標準的サイズであった 150 x 4.6 mm カラムを変革します。

図にはCadenzaの特長が凝縮されています。すなわち、分離度は従来とほぼ同じで、分析時間が従来の約半分、コンディショニング時間も約半分に短縮化されています。グラジエント分析の条件変更はたいへん簡単です。グラジエントの初期・終濃度は同じで、グラジエント時間だけを1/2(カラム長比)にするだけです。アイソクラティック分析の場合は、基本的に従来と同じ条件が適用できます。粒子径3 μ mによるカラム設計を徹底的に追求することによって、従来と同じ分離性能で効率の良い分離系を実現しました。

従来の 150 x 4.6 mm に替わる Cadenza CD-C18 75 x 4.6 mm には以下のように多くのメリットがあります。

- 分離度はほぼ同じ … 従来と同じ分離性能が期待できる
- 分析時間が半分 … 分析の高率化が可能
- 濃度感度が向上 … 微量成分の検出感度が向上
- 溶離液の平衡化時間が半分 … 分離条件検討に便利、グラジエント平衡化時間短縮
- 溶媒消費量が半分 … 溶媒コストや廃液処理コストの半減

同じ3 μ m ODSカラムでも、Cadenza CD-C18は出荷時平均 約13,000段という、従来の5 μ m ODSカラムと同等の性能を有しており、同じ3 μ m ODSカラムの中でもずば抜けた高性能を有しています。

「同じ分離ができるなら短いカラムの方が便利」。これが次世代ODSカラムの大きなメリットです。